

小規模酪農経営が省力化機械を導入し、労働負担軽減により規模拡大

(岩手県)

- ・施設整備事業(中山間地域優先枠)を活用し、牛舎を整備し、省力化機械を導入。
- ・公共牧場やTMRセンター等の外部支援組織の充実を図り、酪農経営の労働負担の省力化を進め、生じた余力で生産性向上に取り組む。

現状と課題

小規模経営で機械化が進まず、労働負担が多大

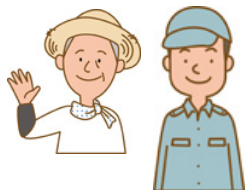
施設整備事業(中山間地域優先枠)の活用

飼養環境の改善と規模拡大を図るため、牛舎整備とあわせて、省力化機械を導入

地域の展望

外部支援組織の充実を図り、省力的な酪農経営モデルを確立し、地域全体で担い手を確保

親元就農し、親子2人で経営



所得向上のため、増頭したい!

搾乳牛9頭

木造牛舎(11頭規模)

育成牛4頭

ハウス牛舎

中山間地域優先枠の規模拡大の要件緩和※を活用して新たに牛舎を整備し、規模拡大に取り組む。

※ 地域の伸び率以上に規模拡大する経営は、地域の平均規模に満たなくても支援対象。

現状13頭→目標35頭へ規模拡大(伸び率: +169%)
地域平均: 43頭/戸、
飼養頭数(地域全体): 現状2,893頭→目標2,900頭
(伸び率: +2%)

牛舎24頭規模

・牛舎新設(24頭規模)
・パイプライン、バークリーナーを導入

効果 労働負担の軽減と生産性向上

- 省力化機械(パイプライン、バークリーナー)を導入し、労働負担の軽減を図る。
- 牛舎整備による飼養環境の改善により、乳質や繁殖成績の向上が可能。

展望 省力的な酪農経営モデルの確立

- 公共牧場やTMRセンター等の外部支援組織の充実を図り、酪農経営の労働負担を軽減。



公共牧場

TMRセンター

- 生じた余力を飼養管理に集中し、乳質向上、繁殖成績の向上、疾病減少等に取り組み、収益向上を図る。

- 担い手の確保により地域全体が発展

課題 狭小牛舎の限界

- 牛舎が狭く、飼養環境の改善が困難。
- 搾乳作業(バケツ搾乳)や除糞作業(手作業)に係る労働負担が多大で、規模拡大するには省力化機械の導入が必要。